

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設として目指す理念と利用者の視点に立った理念を作成し、毎朝申し送り時に復唱し、共有と実践に繋げている。	利用者の尊厳を重視した理念が、各部署に掲示されている。その志を損なうことのないよう、毎朝、職員が就業前に理念を復唱するなど、意識啓発にも努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所主催の納涼祭に地域の方に来て頂いたり、地域の祭りへ出かけている。又、散歩時に挨拶を交わしたり、野菜を頂くなどの交流が来ている。地域の商店やスーパーに買い物に出かけている。	事業所主催の行事には、地域の参加を呼びかけるとともに、地域における各種行事へも積極的に足を運び交流を深めている。また、利用者が参加途中に野菜のおすそ分けをいただくなど、良好な関係も構築されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接の特養と協同で地域の方に向け職員自らが講師となり、認知症や介護についての勉強会を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では活動報告や事故報告等グループホームの実際を報告意見を頂きサービスの向上に生かしている。	会議では施設の現状について、役員を交えた意見交換が行われている。また、施設評価の結果から洗い出された問題点についても改善に向けて協議検討も行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からないこと等相談している。又運営推進会議にも参加して頂き事業所の状況報告を行っている。	市担当職員とは日常的に連携が保たれており、積極的な情報共有がなされている。困難事例に対する相談や助言を得るなど、問題解決に向けて市と事業所が一体となって取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	市主催の研修に参加し、伝達講習を行い、全職員が理解している。	身体拘束をしない生活に徹し、利用者の安全確保に努めている。また、市主催の研修への参加や、勉強会の開催も実施する等、全職員が高い向上心を有している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会が中心となり、勉強会の開催やアンケートを実施し、ケアの見直しを行っている。又委員会で作案したスローガンを掲げ常に念頭に置き、ケアに当たっている。	虐待防止委員会を設置し、適宜、勉強会やアンケート調査を実施する等、積極的な取組を進めている。また、委員会の掲げるスローガンの下で、職員の意識啓発にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて学ぶ機会はあるが全職員に至っていない。成年後見制度利用の必要のある方については市町村や関係者と連携を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い同意を頂いている。又利用料改訂の際にはその都度説明を行い、疑問点についてもその都度説明し納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置の他、面会時連絡時に意見要望等を伺っている。又、頂いた意見要望等は改善策も含め書面にて掲示し公表している。必要があれば上司に報告し運営に反映出来る様取り組んでいる。	意見箱の設置により、利用者や家族から忌憚のない意見を募り、頂いた苦情等の意見に対しては、慎重に議論の上、その対応を書面により公表するなど、施設運営の改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期面接の他会議やミーティング等で話し合っている。	職員との個別面談を重視し、定期的を実施しているほか、日常的なミーティングや部署会議におけるアイデア、気付きなども積極的に施設運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の目標に対して定期的に面接を行い達成できる様支援している。又きちんと評価し、やりがいや向上心に繋がる様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の職責や力量にあった研修の他必要と思われる研修への参加を促している。又資格取得についても支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会や外部の研修に参加し交流や学びの機会を持っている。又、実習を通して情報交換やサービス向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接を行い、本人の不安や要望等を聞き分かり易い様具体的に説明する事を心掛け安心してサービスを受けられる様努めている。入居後も不安や困り事は無いが随時聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接時や相談に来られた際に不安や困りごと等を聞き、相談しながら一緒に考え安心して頂ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の困りごと等をお聞きし必要と思われるサービスについても説明し、何が一番良いか一緒に考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人に出来る事をお手伝いして頂き感謝やねぎらいの言葉を伝えている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人の様子を伝えたり要望等聞きながら、本人にとってより良い支援が出来る様話し合っている。	家族の面会時には、利用者の生活状況を報告した上、利用者のニーズについて、家族とともに話し合うなど、家族の意見や要望に耳を傾けたケアが実践されている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に沿った外出外泊の支援をしている。又、面会時にはゆっくりくつろげるような環境作りに努めている。	馴染みの理美容の継続、本人の希望する日用品購入、または利用者や馴染みのある地域の方との関係を把握する等、その繋がりがきれないように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の関係性を把握し、気持ちよく過ごせるような環境作りを心掛けている。又職員が間に入り活動や会話等を通して利用者同士のコミュニケーションが図れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もその後の様子を聞きながら出来る事の相談や支援をしている。又他施設入居での退居については利用者と一緒に面会に行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方の希望や意向については事前面接で何う他随時間聞いている。困難な方については家族と相談しながら一緒に考えている。	事前面接時のアセスメントシートだけでは把握できなかった本人の意向等、日々の生活場面でのコミュニケーションや日常の様子を観察し、楽しそうな表情等がみられる場合は、プランに繋げられるよう努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントツールの活用と日頃の関わりや家族から聞く等して情報収集している。	センター方式の3シートを活用し、一人ひとりのこれまでの暮らしぶりが把握できるよう努めている。入居時、家族からシートの書き込みにも協力してもらっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の関わりや会話の中から本人の現状を把握し申し送りやミーティング、記録に残す等して職員間の情報共有に勤めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なケアプランの見直しの他本人の状態に合わせ随時見直しを行う他、必要に応じて看護や理学療法士などの専門職にも相談している。又家族本人の要望も聞きながら現状に合ったケアプラン作成に勤めている。	介護計画は3ヶ月ごとの定期的な見直しを行うと共に、本人の状態の変化等で、随時の見直しも行っている。認知症の進み具合等、センター方式のシートを活用し、家族からの理解と協力をお願いしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の関わりやサービス提供の中での気づきや本人の様子を記録に残したり申し送る等して情報共有やケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態に合わせ必要に応じて他部署や他職種に相談し協力、連携をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容院の送迎で馴染の美容院を継続利用している。又出向く事が困難な方は出張理容を利用し髪を整えてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来る限りかかりつけ医を受診して頂いている。家族対応で受診される方についてはホームでの様子や相談したい事などを書面にて医師に伝え、受診目的が明確になるようにしている。	定期受診や透析通院の送迎等、かかりつけ医への受診を支援している。病気の発見により緊急受診する場合は家族と共に出向き、必要に応じて生活面の様子などを医師に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期訪問時の他、何かあればその都度訪問看護に相談、指示を仰ぎ適切な対応や早期受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの様子や経過などを書面にて担当医に伝えている。入院中は経過を聞きながら対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態に合わせながら又、必要に応じて「どうすべきか」ホームで出来る事を説明しながら家族と相談している。	現在該当する利用者はいないが、過去の事例を参考に今後の対応に向けた取り組みを準備中である。また、重度化した場合や終末期についての職員研修を予定している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年救急法の講習会に全職員が参加している。又急変時のフローチャートを作成しきちんと対応出来る様にしている。	消防署が実施する救急法の講習会には、前期後期に分かれて年1回全職員が受講している。また、急変時のフローチャートも作成されている。だが、職員の中では、夜間の少数職員時の対応等に不安を感じている様子も窺える。	命を預かる責任の重みを身につけるために、今後は演習を含む内部研修や勉強会等を積み重ねていく機会の強化を期待したい。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。又訓練には地域の方にも参加して頂き協力をお願いしている。	防災訓練は年2回実施し、地域の方からも参加して頂き協力体制を築いている。その内、1回は消防署からも立ち会ってもらっている。防災委員会では、今後歩行可能な利用者も参加できる避難経路の訓練等を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であるという事を意識しながらも一人一人に合った声かけをしている。又接遇の勉強会に参加したり、会議などで話し合いながらケアの振り返りを行っている。	全職員が利用者の尊厳やプライドに配慮した接遇を心掛けている。さらにケア委員会で、新任職員を中心に年2回DVDや講師の話を聞くなど、日々の接遇で気になる点を取り上げ改善に努めている。	利用者家族からのアンケートにも見受けられるが、全職員の統一した利用者への気配り、声かけへの働きかけを今後も継続して期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から希望や要望等言いやすい雰囲気作りと信頼関係が築ける様関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食堂やお部屋でその方のペースで過ごして頂いている。お手伝いや活動は出来る事を体調や気分に合わせてながらして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は本人と一緒に選び好みの服を着て頂いている。艱難な方については家族から聞いた情報を基にその方らしい服装等を職員がえらんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みの把握をしている。又食べやすい食形態と食器で提供する等の他、下ごしらえから片付けまでその方の出来るお手伝いをして頂いている。	個々の状況に合わせて、かゆ食、きざみ食、ミキサー食等、食形態を工夫している。また、馴染みの食器(はし、茶碗、湯のみ)を使い、職員とともに和やかな雰囲気ですべてを楽しんでいる。利用者は準備から片付けまで、できることを自然な形で参加している。また旬の野菜を使った漬物作り等にも参加してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合った食事量や食形態で提供している。水分摂取を自ら控える方については本人の好むものやゼリーなどで提供する等の工夫をしている。今後は管理栄養士の献立で食事提供していく。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態や力に合わせて介助や声掛けにて毎食後行っている。又職員は口腔ケアの勉強会にも参加し必要性を理解している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の状態や力に合わせ、トイレの声掛けやお手伝いをしている。又出来る限りトイレで排泄できる様支援している。	トイレ誘導を基本とし、一人ひとりの排泄パターンを水分摂取量とトイレチェック表を確認しながら個別の支援方法を検討し取り組んでいる。現在、夜間帯以外は、約半数の方が布パンツとパット対応で調整できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便状況の確認を行っている。又飲み物や食事内容の工夫、運動の声掛けも行っている。個別に朝食後のといれが習慣となるようケアにあたっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声掛けや本人の希望時に入浴して頂いている。入浴を好まれない方については気持ちよく入浴して頂けるよう声掛けやタイミングに配慮している。	利用者の希望により、同性介助や皮膚の状態で石鹸やシャンプー等個人専用の物も受け入れている。入浴は週3回を基本としているが、希望があれば柔軟に対応している。入浴を好まない人には原因等を職員間で共有し利用者に合わせた入浴ができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースで休んで頂いている。眠れない方については出来る限り寄り添ったり安心して眠れるような環境づくりを心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の内容については処方箋で確認理解している。服薬間違いのないよう職員間で何度もチェックを行っている。又本人の状態確認を行い気になる症状があれば医師や看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式のアセスメントツールを活用し、生活歴の把握に努め個別に役割や楽しみとなるような活動提供を行っている。又行事企画で楽しみや気分転換できる様取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は戸外の散歩や買い物など本人の希望に沿った外出支援をしている。すぐに対応できない時は本人と相談しながら日程を決めている。	ホーム周辺、魚沼の自然が楽しめる環境下での散歩は日常的に行われている。本人の希望による外出を大切にしている。引きこもりがちの人には目的あるお出かけ作りをプラン化し支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動販売や近くの百貨店に買い物に出かけて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は季節感や生活感が感じられるような装飾に努めている。又利用者と一緒に作成した作品を飾り楽しんでいる。	共用スペースは、利用者と共に作った暖簾や壁飾りが飾られている。静かな空間のアクセントになり発表の喜びに繋がられるよう工夫されている。窓から望む魚沼の自然を、四季を通じ楽しめるよう家具の配置等がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファやベンチが設置してあり個々のペースで過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染の物をお持ち頂くようお願いしている。家具等の配置については本人家族と相談しながら随時行っている。	入居前の暮らしが継続できるよう、供え付け家具に合わせて不足の調度品や好みの日用品を持ち込んでもらっている。家族と相談しながら居心地良い部屋作りに配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示をしたり、安全に移動できる様動線の工夫等している。居室も本人の状態に合わせて随時環境の見直しを行っている。		